平成21年10月4日
現地説明会資料

【鳥取県民カレッジ連携講座】

国史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査現地説明会

調査機関　鳥取県教育委員会事務局妻木晩田遺跡事務所
調査期間　平成21年4月から10月

調査の概要

松尾頭(まつおがしら)地区は、第1次調査（平成7年度）の時、弥生時代後期後葉ごろ（2世紀後半）の大型竪穴住居跡群(おおがたたてあなじゅうきょ)や、24本柱の大型庇付掘立柱建物跡(おおがたひさしつきほったてばしらたてもの)が見つかった地区です。妻木晩田遺跡事務所では、この地区の集落の様子を明らかにするため、平成17年度から発掘調査を行っています。

今年度は、大型竪穴住居跡の分布状況などを明らかにするため、発掘調査を行っています。調査の結果、北東側の丘陵で弥生時代終末期（3世紀前半）の大型竪穴住居跡が分布すること、大型竪穴住居跡が多く分布する3区南側の丘陵では、大型竪穴住居跡は見つからず、平均的な大きさの竪穴住居跡が広がっていることが分かりました。

松尾頭地区発掘調査位置図

調査成果

- 弥生時代後期後葉の大型竪穴住居跡がまとまって見つかった3区の北東側の丘陵で新たに弥生時代終末期の大型竪穴住居を2棟確認しました（SI 115、119）。また、3区南側の丘陵では大型竪穴住居跡は分布せず、一般的な規模の竪穴住居跡が分布していることが分かりました。
- 松尾頭地区では終末期に至るまで、大型竪穴住居跡が3区から北東側の丘陵にかけて、場所を変えながらも継続して作られていたことが分かりました。
- 今回松尾頭地区に点在する窪地のうち1ヶ所を調査したところ、終末期の竪穴住居跡であることが分かりました。
- 鳥取県下の過去の窪地(くぼち)の調査例を見ると、窪地は住居群の最終段階の竪穴住居跡となる傾向があることから、松尾頭地区に点在する窪地は終末期後半以降の竪穴住居跡の可能性が高いといえます。

北東側の丘陵で見つかった大型竪穴住居跡（SI119）

メモ

鳥取県教育委員会事務局妻木晩田遺跡事務所
鳥取県西伯郡大山町妻木1115−4
電　　話　0859−37−4000
ファクシミリ　0859−37−4001
ホームページ　http://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/